



令和7(2025)年度  
山陽中学校だより(こうき)  
令和8年1月7日(水)  
第9号 文責 三浦 洋



## 「3学期始業式 式辞」

新年あけまして おめでとうございます。元気に登校した皆さんに会え、嬉しい思いで一杯です。

今年の干支(えと)は、十干(じっかん)の「丙(ひのえ)」と十二支(じゅうにし)の「午(うま)」が組み合わさった「丙午(ひのえ・うま)」です。「丙(ひのえ)」は十干(じっかん)の3番目、「火(か)の陽」の性質を持ち、太陽のような明るさ、情熱、決断力を象徴し、生命の力強い成長段階を表します。また、物事を外に大きく広げていく性質があり、リーダーシップやエネルギーを意味します。その影響力は、非常に強い、とされています。

「午(うま)」は十二支の7番目で、動物の馬に当てはめられています。古代では「馬」が生活の要であり、健康や豊作、発展の象徴でもありました。また「午」の字は、餅をつく道具の動きに由来し、交差や転換を意味します。このことから「午前」「午後」のように、時間の区切りにも使われています。

皆さんの丙午の年は、どのような一年になるか、楽しみです。

さて、丙午の年にふさわしく昨年よりもさらに成長した山陽中卒業生が、新年早々、勇気と感動を届けてくれました。第102回箱根駅伝往路1区で、本校の卒業生である中央大学3回生の藤田大智さんが力走している姿を目にしました。

1月2日、箱根駅伝往路のスタート前の様子をテレビで観戦していましたが、何と1区出発地点に並んでいる藤田選手を見つけ、歓喜しました。昨年は2回生でありながら、アンカーの10区を任されました。6位でタスキを受け取り、最終的に一人を抜き、見事に総合5位でゴールテープを切りきました。23.0kmを1時間9分25秒で走り抜け、堂々の区間4位の記録は立派でした。

本校職員室前には、藤田選手が昨年1月12日に来校したときに寄贈していただいたその箱根駅伝で着用したユニホームとゴールしたときにつけられたタオルが展示されています。たった1つしかない貴重なユニホームとタオルを山陽中生のために惜しげもなく差し出してくれた彼の立派な態度に頭が下がります。そして、そのときに述べた決意を本校の陸上部顧問より聞き、敬服しました。「来年の箱根駅伝で、必ずメンバーに入って出場できるように頑張りますから受け取ってほしい」と。

それから1年間、私たちの想像をはるかに超えた練習を積みかさねてきたことでしょう。1月3日のスポーツ新聞の記事を読んで驚きました。中央大学の選手たちは「箱根駅伝総合優勝」を合言葉に、「毎年恒例の夏合宿では、とにかく距離を踏んだ。例年は1か月で約900km。今年は1,000kmがベースで、1,100kmを超える選手も複数現れた」と。

見事に出場メンバーに抜擢された藤田選手は、花の1区21.3kmを従来の区間記録よりも3秒速い1時間0分37秒で、先頭から9秒差の区間2位でタスキをつなぎました。序盤からハイペースで先頭集団を引っ張り、中盤では先頭集団に食らいつき、終盤まで粘って2位を死守した走りを幾度となく放映されたテレビ画面を見ながら胸が高ぶり続けました。素晴らしい結果を称賛するとともに、来年は4回生になる藤田選手の活躍をもう一度見たい、と祈念しました。

今日から3学期がスタートします。2026年の丙午は、強力なエネルギーを味方につけ、前向きに挑戦することで、人生を大きく飛躍させられる「最強の年」と期待されています。特に3年生は卒業後の進路を獲得するために、なかまとともに最後まであきらめずに努力を続けてください。また、1・2年生は進級に向け、しっかりと力を蓄える1学期間にしてください。

結びにあたり、今年の箱根駅伝でも活躍した藤田選手ですが、1回生のときにはスランプに陥り、記録が伸びず、何度か陸上をやめたい、と家族に弱音を吐いたことがあるそうです。その苦しい時期を乗り越えて今の藤田選手の活躍があることを申し添えます。皆さんは、「過去と他人は変えられないが、未来と自分を変えられる」と信じ、在りたい自分に向け、主体的に努力を続けて頑張ってください、と期待しています。

それでは本学期も宜しく願います。以上、簡単ですが、式辞とします。